

ヘーゲル『論理学』初版（1812年）444段落～446段落

段落	文	頁	行	原文	神山訳	寺沢訳
		154	1 2	C. Begrenzung der Quantität.	C. 量の限界づけ	C量の限定
444	1		3 4 5 6	Die discrete Größe hat erstlich das Eins zum Princip, zweytens ist sie wesentlich stätig, sie ist das Eins zugleich als aufgehobenes, als <i>Einheit</i> , das gleichsam breite, continuirte Eins.	分離した〈大きさ〉は、第一に、〈一つ〉を原理としており、第二に、本質的に連続している（途絶えない）。分離した〈大きさ〉は、〈一つ〉であり、同時に、廃棄されてしまった〈一つ〉として、すなわち【統一（単位）】としては、いわば幅のある連続する〈一つ〉である。	離散的な大きさは、まず第一に、一をその原理としており、第二に、それは本質的にと切れておらず、同時に揚棄されたものとしての・単位としての一であり、いわば幅のある・連続的な一である。
			6 7 8 9 10 11	Insofern aber das Eins, oder die vielen Eins gleich wesentlich und unmittelbar Einheit sind, ist damit nur Quantität überhaupt, oder insofern das Eins in der Einheit aufgehoben ist, und als viele Eins in die Einheit zusammensinken, continuirliche Quantität gesetzt.	しかし、〈一つ〉が、あるいは多くの〈一つ〉が、ただちに本質的にかつ直接的に統一であるかぎりでは、そのことによって、一般に量が設定されているにすぎない。あるいは、〈一つ〉が統一のなかで廃棄されているかぎり、また、多くの〈一つ〉が崩壊してこの統一になるときは、連続した量が設定されている。	しかし一が、あるいは多くの一が、直ちに本質的かつ直接的に単位であるという限りでは、そのことによってはただ量一般が定立されているだけである、あるいはまた、一が単位において揚棄されており、多くの一として単位へと沈みこんでいる限りでは、連続的な量が定立されている。
			11 12 13	Aber diese ist umgekehrt in discrete Größe übergegangen, und die Continuität das im Eins aufgehobene Moment.	だが、逆に反転して、連続した量は、分離した〈大きさ〉に移行したし、連続態は、〈一つ〉において廃棄されてしまったモメントである。	しかし連続的な量は逆に離散的な大きさへと移行してしまっており、こうして連続性は一において揚棄された契機である。
			13 14 15 16 17	Das Eins ist somit zwar einerseits zur Einheit erweitert, und diese ist nicht verschwunden, sondern vielmehr wesentlich vorhanden, aber sie ist mit einer Negation gesetzt; das Eins wird an der Einheit zur <i>Grenze</i> .	それゆえ、〈一つ〉は、たしかに一面では拡張されて統一になっており、この統一は、消えてしまわずにむしろそれ以上に本質的に現前している。しかし、この統一は、否定とともに設定されている。〈一つ〉は、統一のもとで【限界】になった。	だから一は、なるほど一面では単位へとおしひろげられており、単位は消失しているのではなくむしろ本質的に現存しているのであるが、しかしそれは否定をともなって定立されている。〔つまり〕一は単位のもとで限界になっているのである。
			17 18 19 20	Die Continuität ist wesentliches Moment, und hat die Negation an ihr, aber ist unterschieden zugleich von dieser ihrer Negation, die in dieser Bestimmung Grenze ist.	連続態は、本質的な契機であり、みずからのもとに否定を具えているが、同時に、このみずからの否定と区別されている。この否定は、以上のような規定では、限界である。	連続性は本質的な契機であり、それのもとに〔顕在的に〕否定をもっているが、しかし連続性は同時にこの自己の否定から区別されており、この否定は〔連続性という〕この規定における限界である。
			20 21 22 23 24	Diese Grenze, ausser dem, daß sie auf die Einheit bezogen und die Negation <i>an derselben</i> ist, ist sie auch <i>auf sich bezogen</i> ; sie ist als das, wie sie an sich ist, nemlich als Eins, umschliessende, befassende Grenze.	こうした限界は、統一に関係づけられて【統一のもとで】否定であるほかに、【みずからに】も【関係づけられて】いる。この限界は、それ自体であるようなものとしては、すなわち〈一つ〉としては、包含し包括する全体である。	この限界は、単位へと関係づけられており、単位のもとでの否定であることほかに、自己へも関係づけられている。限界は、それが本来あるがままのものとして・すなわち一として、囲いこみ・包みこむ限界である。

ヘーゲル『論理学』初版（1812年）444段落～446段落

	7	24 Die Grenze unterscheidet sich hier nicht 25 zuerst von dem Insichseyn oder dem Etwas ihres Da- 26 seyns, sondern als Eins ist sie unmittelbar dieser negati- 27 ve Punkt selbst.	この点で、限界は、まず第一に、〈みずからの内にあること〉と区別されないし、あるいは、みずからの現存在という〈なにものか〉と区別されない。むしろ、限界は、〈一つ〉として、直接的にこうした否定的な〈点〉それ自身である。	限界はここではさしあたり、限界の定在である自己内存在ないしは或るものから区別されておらず、一として限界は直接にこの否定的な点そのものである。
	8	27 Auf der andern Seite ist das Seyn, 28 das begrenzt ist, wesentlich hier als Continuität, die 29 über die Grenze und diß Eins hinausgeht.	別の側面では、限界づけられている存在は、ここでは本質的に連続態としてある。この連続態は、限界を超えて行き、こうした〈一つ〉を超えて行く。	他面では、限界づけられている存在はここでは本質的に連続性としてあり、そして連続性は限界とこの一とをこえ出てゆく。
	9	29 Die wahr- 20 hafte discrete Quantität ist also <i>eine</i> Quantität, oder 31 <i>Quantum</i> .	したがって、真実の分離した量は、【一つの】量であり、すなわち【数量】である。	したがって真に離散的な量は、ひとつの量・あるいは定量である。
445	1 155	1 Oder die Größe ist zuerst unmittelbare Einheit der 2 Continuität und Discretion.	ようするに、〈大きさ〉は、まず第一に、連続態と分離との直接的な統一である。	換言すれば、大きさはまずはじめ連続性と離散性との直接的統一である。
	2	2 Als Quantität ist sie <i>die</i> 3 <i>in sich zurückgekehrte</i> Einheit dieser Momente; als 4 diese ihre negative Einheit hat sie den in der unmittelba- 5 ren oder continuirlichen Größe nur verschwundenen oder 6 nur möglichen Unterschied an ihr.	〈大きさ〉は、量としては、これらのモメントが【みずからの内に還帰した】統一である。〈大きさ〉は、こうしたみずからの否定的な統一としては、直接的な〈大きさ〉のかたちで、すなわち連続的な〈大きさ〉のかたちで消えてしまっただけの区別、いいかえればただ可能なだけの区別をみずからに具えるのである。	量としてそれ〔大きさ〕は、これら両契機の自己へと還帰した統一である。これら両契機のこの否定的統一として大きさは、直接的なすなわち連続的な大きさにおいてはただ消失してしまった区別・ないしは可能的にすぎない区別を、それのもとに〔顕在的に〕もっている。
446	1	7 Erstens ist diese <i>negative</i> Einheit nicht nur Ein- 8 heit der Continuität und Discretion, als abstracter Mo- 9 mente, sondern auch derselben betrachtet als continuirli- 10 cher und discreter Größe.	第一に、こうした【否定的な】統一は、抽象的なモメントとしての連続態と分離——これらの統一であるばかりではなく、連続した〈大きさ〉と分離した〈大きさ〉として考察された連続態と分離——これらの統一でもある。	第一に、この否定的統一は、抽象的契機としての連続性と離散性との統一であるだけでなく、連続的な大きさおよび離散的な大きさとみなされた両者の統一でもある。
	2	10 Es ist überhaupt kein wahr- 11 hafter Unterschied der continuirlichen und discreten Größe.	一般に、連続した〈大きさ〉と分離した〈大きさ〉とのあいだに真なる区別はない。	一般に、連続的な大きさと離散的な大きさととの真の区別は存在しない。
	3	12 -- Zweytens aber ist diese negative Einheit nicht eine 13 Bestimmtheit, in welche die Größe übergeht, sondern die 14 sie an ihr selbst hat; sie ist das Eins, in welchem sich <sup>1</sup> als 15 ihrer eigenen Bestimmtheit sich die Quantität setzt.	——しかし、第二に、こうした否定的な統一は、〈大きさ〉が移行する先の規定態ではなくて、〈大きさ〉がみずから自身のもとに具える規定態である。その否定的な統一は、〈一つ〉である。この〈一つ〉のうちで、量が、否定的な統一に独自の規定態として設定されている。	——しかし第二に、この否定的統一は、大きさがそれへと移行してゆく規定態ではなくて、大きさがそれ自身のもとに〔顕在的に〕もっている規定態である。すなわちそれは一であり、この一の中かで量がその固有の規定態としての自己に対して自己を定立するのである。

<sup>1</sup>GW. では、この sich をトル。

ヘーゲル『論理学』初版（1812年）444段落～446段落

	4	<p>15 In-</p> <p>16 dem überhaupt die Quantität die aufgehobene Qualität,</p> <p>17 indem sie an sich selbst unendlich ist, so ist in ihrer Be-</p> <p>18 wegung kein Uebergehen in absolutes Andersseyn vorhan-</p> <p>19 den, sondern ihr Bestimmen besteht eben so sehr nur in</p> <p>20 dem Hervortreten der in ihr bereits vorhandenen Momente.</p>	<p>一般に、量は、廃棄されてしまった質であること によって、すなわち、量がそれ自体それ自身で無 限であることによって、量の運動においては、絶 対的な〈他であること〉に移行することが現前す ることはない。むしろ、量が規定することの実質 は、同じ程度に、量にすでに現前しているモメン トが出現することだけにある。</p>	<p>一般に量は、揚棄された質であり、それ自体本来 無限であるから、量の運動のうちには絶対的な他 在への移行運動は現存せず、量の規定作用はまっ たくただ、そのなかにすでに現存している契機 が現われ出る運動においてだけ成り立つのであ る。</p>
--	---	--	---	--